

2019年 5月18日(土)

13時30分~15時

佐賀城本丸歴史館 御座間

七田忠昭(当館館長)

日本の城の誕生と日中外交

吉野ヶ里の王、帥升が果たした

妻子重者滅其門族其死停喪十餘日家
骨以上用決吉凶行來度海令一人不擲
利則雇以財物如病疾遭害以為持衰不
中元二年倭奴國奉貢
夫倭國之極南界也光
武賜以印綬安帝永初元年倭國王帥升
願請見相靈間倭國

平成時代の幕開けとともに姿を現した吉野ヶ里遺跡は、その後の発掘や研究により、国内屈指の大規模環壕集落であり、日本の城郭の誕生を物語る遺跡であることが分かった。

県内に存在する中近世城郭跡である名護屋城跡や唐津城跡、佐賀城本丸跡などには、入り口としての枡形と呼ばれるくい違いの出入口や櫓などの防御施設が存在するが、実は、弥生時代の吉野ヶ里遺跡にも備わっていたのである。

弥生時代の吉野ヶ里環壕集落を、単に壕によって囲まれた集落とみるか、城郭とみるかの違いによって弥生時代像が大きく異なってくる。吉野ヶ里遺跡を中心とした佐賀地方の弥生時代集落構造の中国化という現象が、漢書・後漢書・三国志など中国正史が物語る日中外交というダイナミックな交流によって生まれたことを紹介したい。

佐賀で日本初の城が
生まれたことを熱く
語ります。

